

仁淀川地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

(平成27年度 第3四半期)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p><b>1 仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上</b></p> <p>《いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>良質茶の主産地である仁淀川流域の生産者が共通認識のもと「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、適正な栽培管理と効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p> <p>【JAコスモス、管内の茶生産組織】</p>	<p>○仁淀川流域全体をイメージした販促資材を活用し、積極的な販促イベントや茶摘みツアーなどのPR活動を実施することで、一定のブランドイメージの構築と知名度が向上できた。</p> <p>○優良茶園維持管理体制について生産者アンケートを実施し、その結果、今後のJAコスモス茶生産部会を中心とした産地ビジョンをつくり、それに基づいた行動計画を策定できた。</p> <p>○煎茶以外の紅茶などの商品開発や既存商品の包装形態等の見直しに取り組み、商品レパートリーが拡充できた。</p> <p>○新害虫の発生消長や分布に関する調査ができ、効率的に防除できている。</p> <p>○JAコスモス、自園自製茶事業者ともに小売販売に注力し、仕上げ茶販売比率を高めた。(H23 8.6%→H26 11.3%)</p> <p>◆さらなる知名度向上と消費拡大。 ◆さらなる仕上げ茶販売量の増加。 ◆優良茶園の維持 ◆新商品の開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品開発検討(1回)</li> <li>・消費者と生産者の交流会(5回)</li> <li>・茶害虫チャットゲコナジラミ発生量調査(111茶園)</li> <li>・茶改植事業周知(3回)</li> <li>・販売促進活動(5回)</li> <li>・6次産業推進事業打合せ、本年計画策定、営業活動(8回)</li> <li>・平成26年度の小売販売量、小売販売額、荒茶生産量の調査(1回)</li> <li>・土佐茶カフェとの合同出店開催(3回)</li> <li>・産業振興アドバイザー指導・助言(ビバ沢渡3回)</li> <li>・お山の茶明郷園と黒岩じるしが茶カフェ開催(1回)</li> </ul>
<p><b>2 地域を支える基幹品目の振興</b></p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモス各生産部会、越知町山椒生産組合】</p>	<p>○ニラの出荷量は、レンタルハウス事業によるハウス面積の拡大やニラ洗浄ソグリ機の導入等により増加してきている。新規就農者及び新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の販売額の増加が期待される。</p> <p>○ピーマンでは活着促進・かん水等の基本的技術が徹底されてきたが、青枯病の多発生や干ばつにより到達点には至らなかった。H26年度は青枯病対策として発生ほ場は、ほ場の転換・土壌消毒・抵抗性台木の導入等の対策が広く取り入れられた。</p> <p>【ニラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ニラ産地の維持・拡大</li> <li>◆経営改善への支援</li> <li>◆栽培管理技術の向上及び部会活動への支援</li> </ul> <p>【ピーマン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ピーマンの収量品質の向上、IPM技術の検討(青枯病対策、天敵利用技術等)</li> </ul> <p>【ショウガ】</p> <p>○ショウガの土壌消毒剤としてダゾメット剤とクロルピクリンが定着してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新規就農者が多く、早期の技術習得が必要</li> <li>◆集出荷体制の強化</li> </ul> <p>【食用山椒】</p> <p>○山椒はさび病対策の目途がたった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保</li> </ul>	<p>【ニラ】</p> <p>月例会 11回、現地検討会 1回 新規就農者個別巡回 55回、ニラ部会研究会 3回 簿記講座 8回、経営改善志向農家個別巡回 40回</p> <p>【ピーマン】</p> <p>現地検討会・目慣らし会の開催 4回 個別巡回指導 6回 講習会 1回 12戸</p> <p>【ショウガ】</p> <p>栽培技術指導 2回 13戸 根茎腐敗病対策指導 10回 13戸 佐川支所ショウガ生産部全員会 1回</p> <p>【山椒】</p> <p>チャノキイロアザミウマ等の害虫対策個別指導 4回 4戸 栽培技術指導および実証圃成果の周知 1回 33戸 枝枯れ症状調査(現地巡回) 6回 山椒生産組合連絡会での病虫害防除対策の検討 7回</p>
<p><b>3 薬用作物の産地拡大による所得の向上</b></p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物の産地を漢方薬の需要増に対応できるように拡大する。また生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図る。</p> <p>【農事組合法人ヒューマンライフ土佐】</p>	<p>○農事組合法人ヒューマンライフ土佐が中心となって薬用作物の面積拡大に取り組んできた。その作付面積は仁淀川流域から嶺北、幡多地域まで拡大し、全県下的な取り組みになっている。特にサンショウの面積拡大が顕著であった。</p> <p>○平成26年度試験結果では、畝面被覆はミシマサイコの発芽率向上に繋がらなかった。</p> <p>○ショウガとの輪作により、ミシマサイコの収量が微増した。</p> <p>○堆肥施用は、ミシマサイコの収量に影響しなかった。</p> <p>○ミシマサイコの県版栽培マニュアルについて、産地間で協力し作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆薬用作物の産地の育成</li> <li>◆佐川町、越知町、仁淀川町を対象にミシマサイコ生産者募集パンフレット約1100部を配布・回覧したが、栽培希望はなかった。</li> <li>◆ミシマサイコの発芽率向上対策の検討</li> <li>◆ミシマサイコの連作障害対策の検討</li> </ul>	<p>【ミシマサイコ(慣行品種)の収量向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽状況の確認(3回)</li> <li>・発芽不良圃場での水分含量比較(2回)</li> <li>・ヒューマンライフ土佐総会(6/8)</li> <li>・最終摘心時期調査圃場設置(6/18)</li> <li>・最終摘心時期調査圃場での最終摘心処理(10/16)</li> <li>・地上部収穫調査(12/11)</li> <li>・個別巡回指導(5回)</li> <li>・県版栽培マニュアルを用いた新規就農者への栽培技術指導(9/7)</li> <li>・高収量農家への栽培技術聞き取り調査(9/11)</li> <li>・経営実態の把握に向けた聞き取り調査(3回)</li> <li>・生育調査(実証圃)(5回)</li> <li>・県域現地検討会 (10/26)</li> </ul> <p>【ミシマサイコ(2年栽培専用品種)の実証栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年株専用品種調査圃場設置(6/18)</li> <li>・地上部収穫調査(12/11)</li> </ul>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者との交流会に合計79名参加(秋葉:32名、JA:14名、霧山:16名、JAコスモス茶講習会:17名)</li> <li>・土佐茶カフェとJA、岡林茶園が茶カフェ開催(3回、来客100組)</li> <li>・小売販売量は25.5t、小売販売額は6,941万円、荒茶生産量は166.2tであった。</li> <li>・お山の茶明郷園の茶カフェ開催(1回、来客30組)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者との交流会 実施団体数(H26:3団体→H27:3団体) 参加人数(H26:74名→H27:62名)</li> <li>・小売販売量8t増加(H19:17t→H22:24t→H26:25t) 小売販売額3,000万円増加(H19:3,930万円→H22:6,584万円→H26:6,941万円)</li> </ul>	<p>【指標】 仕上茶の販売量 (H19 茶全体の7%) (H22 茶全体の11.4%)</p> <p>【目標(H27)】 16%</p>
<p>【ニラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地検討会(9名)で施肥改善実証の効果が確認できた。</li> <li>・炭酸ガス施用実証ほ1戸(7a) 電照栽培導入農家2戸(65a)</li> <li>・4戸が27年前期分の農業簿記記帳ができた。</li> </ul> <p>【ショウガ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根茎腐敗病発生圃場で、次作での発病リスク評価に取り組むことになった(1戸)。</li> <li>・次年度栽培予定圃場へ罹病種芋の持込を防げた(4戸)。</li> </ul> <p>【山椒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さび病防除薬剤の効果やチャノキイロアザミウマの防除対策が生産者に周知できた。</li> </ul>	<p>【ニラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量:275.1t、金額:170,519千円</li> </ul> <p>【ピーマン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量:189.6t、金額:85,558千円</li> </ul> <p>【ショウガ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量:382.5t、金額:208,132千円</li> <li>以上、JAコスモス販売品取扱実績(集計期間:H27.4~10月)</li> </ul> <p>【山椒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷量:食用山椒23t(裏年のため収量はH26年の30tより低下しているが、チャノキイロアザミウマ防除対策の周知により、品質低下による被害が軽減された。)</li> </ul>	<p>【指標】 出荷量H22(ニラ573t、ピーマン245t、ショウガ882t、食用山椒30t)</p> <p>【目標(H27)】 ニラ650t、ピーマン270t、ショウガ950t、食用山椒32t</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽状況は発芽ぞろいも良く、生育も良好。水分含量に大きな差は認められなかった。</li> <li>・新規就農者1戸が県版栽培マニュアルを参考にして栽培することになった。</li> <li>・播種量を増やして間引きすることや生育初期の炭そ病防除の徹底、9月上旬の追肥施用が安定生産には重要との意見が聞かれた。</li> <li>・中心的農家16戸の経営品目や面積を把握した。</li> <li>・2年株専用品種の品種特性について周知した。</li> <li>・高収量農家の栽培技術事例を周知した。</li> </ul>		<p>【指標】 薬用作物の作付け面積 ミシマサイコ (H19:38ha) (H22:47ha) サンショウ (H19:12ha) (H22:59ha) ダイダイ (H22:18ha)</p> <p>【目標(H27)】 ミシマサイコ 70ha サンショウ 80ha ダイダイ 30ha ※一部、愛媛県域を含む</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立が数量的に見える形で示すこと>
<p><b>4 力強い高糖度トマト産地の確立</b></p> <p>《仁淀川町、佐川町、日高村》</p> <p>高糖度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモストマト生産部会】</p>	<p>○食の安全・安心への取組強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化、産地コンセプト活用によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化、販促活動への取り組みにより販路の拡大につながっている。</p> <p>H26台風被害の対応として、「攻めの農業実践緊急対策事業」を活用し、光センサーを導入することで、選果・流通体制を立て直すことできた。</p> <p>◆人材育成及び産地の体制づくりに向けた活動の継続</p> <p>◆安定生産のための栽培技術向上</p> <p>◆販売戦略の新たな展開(下級品の販路拡大)</p>	<p>1 産地コンセプトを理解し実践できる農業者の育成</p> <p>1) 人材育成及び産地の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政連絡会 9回</li> </ul> <p>2 安定生産のための栽培技術向上・トマト栽培指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記講座 6回 10戸</li> <li>・促成:月例会 6回 延べ戸数 70戸、個別巡回指導 延べ人数 262戸</li> <li>・夏秋:現地検討会 1回 4戸、目慣らし会 1回 4戸 個別巡回指導 延べ人数 65戸</li> </ul> <p>3 他産地商品と差別化した販売戦略の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷販売計画検討及び課題の抽出 7回</li> <li>・販促活動の実施 5回</li> </ul>
<p><b>5 JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p> <p>【JAとさし】</p>	<p>○JAとさし園芸産地ビジョンの策定(H21~23)</p> <p>○集出荷施設の整備</p> <p>(1)集出荷場等整備(H21)</p> <p>(2)土佐文旦選果機・生姜重量選別機ライン整備(H22)</p> <p>(3)青ねぎパーシャルシール包装機・予冷施設整備(H22)</p> <p>○JAとさし宇佐ピーマン集出荷場の整備(H22~23)</p> <p>(1)自動秤量包装機導入(H22)</p> <p>(2)集出荷場拡張(H23)</p> <p>○ウリ類園芸作物での黄化えそ病発生率の低下</p> <p>○ピーマン・シシトウでの環境制御技術導入検討が進む</p> <p>○施設果樹での天敵利用技術の導入</p> <p>◆JAとさし園芸産地ビジョンの早期実現と販売力強化</p> <p>◆キュウリ出荷場統合の円滑な推進</p> <p>◆環境制御技術の導入推進と技術確立</p> <p>◆H28年度以降の産地ビジョンの策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム会(土佐市連絡会、指導部会) 22回</li> <li>・キュウリ集出荷場統合の円滑な推進にかかる打合せ 2回</li> <li>・環境制御技術導入の推進にかかる打合せ 4回</li> <li>・園芸品目まなび教えあう場の開催 60回</li> </ul>
<p><b>6 加工用ワサビの加工の促進</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを製造する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p> <p>【㈱マルカ】</p>	<p>○加工出荷施設の整備(H22)</p> <p>販売先である金印(株)が希望する200tの一次加工処理能力は備えることができた。また、県農業振興部、園芸連とも有望品目に位置付け生産振興に取り組んでいる。</p> <p>◆加工用わさび作付面積の減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工用ワサビ関係者との協議:3回</li> </ul>
<p><b>7 土佐文旦の加工</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため加工品の原料としての有効活用を図る。</p> <p>【JAとさし、土佐文旦加工組合、菊水酒造(株)、ひまわり乳業(株)】</p>	<p>○JAとさしと菊水酒造(株)が連携し、平成21年度から文旦の下級品を活用した加工品を検討し、平成21年度には、産振総合支援事業の導入により、菊水酒造(株)が搾汁機を設置した。現在加工品(酒類)を6品開発・販売している。</p> <p>また、販売面では、菊水酒造(株)だけでなく、JAにおいても、JAラベルによる商品(贈答用セット)を作り販売している。</p> <p>◆下級品の提供が伸びておらず、加工業者との連携による商品販売の取り組みと、新たな下級品の利用拡大及び価格等条件整備が課題である。(活用量:21年10t、22年30t、23年30t、24年30t、25年4t、26年5t 文旦下級品量:年平均200t)</p> <p>○土佐文旦加工組合では、委託加工による飲料「ぶんぶん」を製造し、消費拡大を目指して都市部でのPR販売・アンテナショップでの販売に取り組んできた。しかし、消費の低迷等の課題から、新たにひまわり乳業(株)との連携による新商品を開発し、ANAでの機内販売として取り扱われ、商談会・見本市にも参加してきている。新たな搾汁体制も整い、引き続き加工業者との商品の共同開発をしていくこととなっている。</p> <p>◆具体的に新たな商品の開発はできておらず、開発した時の販路も含め、新たな取り組みが必要となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文旦利用の課題整理と、関係者への周知(個別面談3回)</li> </ul>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・促成トマトの出荷量(11/11~12/15) 64.5t(前年同期比 128%)</li> <li>・夏秋トマトの出荷量(5/1~12/10) 63.9t(前年同期比 93%)</li> </ul>		<p>【指標】            トマトの販売額            (H19 4.20億円)            (H22 3.7億円)</p> <p>【目標(H27)】            5.1億円</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境制御技術導入農家(導入面積)が増加している。</li> <li>・メロンのブランド化が進んだ。</li> <li>・2JA共同の集出荷場が稼働し始めた。</li> <li>・担い手を産地自らが担い手を確保・育成するための産地提案書が作成された(JAとさしキュウリ部会)</li> <li>JAとさし青壮年部の呼びかけにより「とさし環境制御技術研究会」が発足した。</li> </ul>		<p>【指標】            JAとさし園芸品出荷量            15,263t(H23園芸年度)</p> <p>【目標(H27)】            16,000t(H27園芸年度)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工用ワサビ出荷量:約52t</li> </ul>		<p>【指標】            加工用ワサビ出荷量            (H21:60.0t)            (H23:71.3t)</p> <p>【目標(H27)】            150t</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・菊水から活用量(現在の価格で最低5t)が示された。</li> </ul>		<p>【指標】            加工原料用土佐文旦の活用量            (H19:0t)            (H22:30t)</p> <p>【目標(H27)】            100t</p> <p>【指標】            加工品の開発と販売            (H19:1品)            (H22:3品)</p> <p>【目標(H27)】            4品(1品/年)</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>8 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>《土佐市》</p> <p>地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【榊前川博之商店】</p>	<p>○充填機等の導入及び工場の新設を行うことにより、経営利益率が高い加工品の生産性が向上している。</p> <p>◆生姜受込量の確保</p>	<p>・生姜加工の取り組みに関する協議:4回</p>
<p>9 いの地域における園芸産地の維持・発展</p> <p>《いの町》</p> <p>農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい状況がみられるなか、いの地域の園芸産地ビジョンに基づく生産の振興と集出荷体制整備により販売力を強化し、農業所得向上に繋げる。</p> <p>【JAコスモス(伊野支所、吾北支所)】</p>	<p>○園芸品目の動き(H25~H26)</p> <p>・ワサビ生産の定着生産者(作付け)の増加 H26園芸年度 42.35a(11人) →平成27園芸年度55.6a(13人)</p> <p>・新規就農者及び後継者が増加 ショウガ部会(2名)、白芽芋部会(4名)</p> <p>○JAとさしキュウリ部会との出荷場統合(H26)</p> <p>◆JAコスモス(伊野支所、吾北支所)管内の園芸産地ビジョンの検討</p> <p>◆キュウリ出荷場統合の円滑な推進</p> <p>◆環境制御技術の導入推進と技術確立</p> <p>◆ショウガ集出荷システムの拡充(検討)</p> <p>◆H28年度以降の産地ビジョンの策定</p>	<p>・チーム会(連絡会、指導部会) 16回</p> <p>・ショウガ集出荷システム整備にかかる打合せ 5回</p> <p>・環境制御技術導入の実証にかかる打合せ 10回</p> <p>・園芸品目の栽培検討会等(ニラ 7回、ワサビ 3回)</p> <p>・ユズ栽培研修会 3回</p>
<p>10 集落営農の推進</p> <p>《いの町》</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p> <p>【いの町吾北地区の集落営農組織】</p>	<p>○上東地区集落営農組合は、協業部門では、ニラ・加工用ワサビ・ゆず等が定着しており、面積も目標を超える2.1ha、作業受託部門では19ha、有望品目研究部での野菜試作など活動が定着してきている。</p> <p>◆機械の効率利用面から、受託面積の拡大と、今後、地域の所得の確保のために、試作した有望品目が定着することが課題となっている。</p> <p>○いの町吾北地区の集落営農は、25年度に大野内営農組合が発足し、7地区となった。また、様々な施策課題を総合的に検討する会議が定例化され、地区の連携に向けて動きが出ている。</p> <p>◆各集落営農組織の活動内容には濃淡があり、地域間の連携を含めた活動の活性化が課題となっている。</p>	<p>【上東地区営農組合】</p> <p>・集落営農の取組(受委託、法人化勉強会の実施等)支援 定例会(4/9,6/25)、総会(4/24)、今後の労働力実態調査(9/25)</p> <p>・集落営農塾(法人化) 関係機関打合せ(7/27,9/29) 地区打合せ(9/25) 集落営農塾の実施(11/18,12/9)</p> <p>・有望品目研究部門秋まき野菜 現地検討会(7/10)、現地研修会(11/10)、試食評価会(11/28)</p> <p>【吾北地区の集落営農】</p> <p>・集落営農塾(地区間の連携強化)の実施(11/16)</p> <p>【大野内営農組合】</p> <p>・集落営農の活動支援(耕作放棄地再生利用緊急対策(国事業)を活用) 総会(5/21)</p> <p>・実証ほ栽培指導・調査等(26回)</p> <p>・集落営農塾(地区間の連携強化)の実施(11/16)</p>
<p>11 生姜等加工品製造施設整備事業</p> <p>《いの町》</p> <p>仁淀川地域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び、地域の雇用拡大に繋げる。</p> <p>【西村青果株】</p>	<p>◆計画期間内での建設工事の完了</p>	<p>・産振補助金の交付決定(H27.1月交付決定、総事業費152,206千円、H26繰越分)</p> <p>・産振補助金の変更申請(総事業費181,224千円に変更、作業用建屋をプレハブ→軽量鉄骨に変更、事業完了予定日H27.10.31→H28.2.15に変更)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
	・生姜加工品の販売額:40,946千円(H27.9月期決算)	<b>【指標】</b> 生姜加工品の販売額 (H22:114,792千円)  <b>【目標(H27)】</b> 200,000千円
<b>ユズ</b> ・平成28年度にむけて、青玉出荷への意向が高まっている。 ・環境制御技術への関心が出てきた。  <b>ワサビ</b> ・次年度に新規就農者による面積拡大の見込み		<b>【指標】</b> 出荷量 (H23園芸年度) ・伊野支所 生姜:464t 白芽芋:27t 胡瓜:259t ・吾北支所 柚子:232t ワサビ:21t  <b>【目標(H27)】</b> (H27園芸年度) ・伊野支所 生姜:510t 白芽芋:29t 胡瓜:265t ・吾北支所 柚子:250t ワサビ:30t
<b>【上東地区営農組合】</b> ・集落営農塾(法人化)への参加 延べ24人 ・有望品目研究部門 現地検討会への参加 4人 試食評価会への参加 18人  <b>【吾北地区の集落営農】</b> ・集落営農塾(地区間の連携強化)への参加 3組織8人(大野内営農組合含む)  <b>【大野内営農組合】</b> ・営農組合による、耕作放棄地解消作業が行われ、耕作放棄地11aが解消された。 ・集落営農塾(地区間の連携強化)への参加 5人	<b>【大野内営農組合】</b> ・耕作放棄地解消地において、ソバが播種された。 ・今年解消地の一部(5a)には、H28.2月頃からミシマサイコを栽培することになった。	<b>【指標】</b> 周年経営する協業面積(H22:1.7ha) <b>【目標(H27)】</b> 1.9ha  <b>【指標】</b> 水稻作業の受託面積(H22:8ha) <b>【目標(H27)】</b> 24ha  <b>【指標】</b> 集落営農組織数(H22:6組織) <b>【目標(H27)】</b> 7組織  <b>【指標】</b> 集落営農組織のネットワーク化 <b>【目標(H27)】</b> 協議会発足
		<b>【指標】</b> 生姜等加工品の販売額 (H25:210百万円)  <b>【目標(H27)】</b> 276百万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>12 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。</p> <p>【本川手箱きじ生産企業組合、いの町】</p>	<p>○目標達成には到っていないが、飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。平成23年秋より新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。平成24年は生産組合がゆうパック秋冬ギフトへ申請し採択、手箱建設は、東武百貨店ネット事業部で販売開始し、今後の足がかりとなった。平成25年度には新商品として生ハムの試作品ができ、平成26年度には新商品として「きじ重」の販売を開始した。「きじ重」は新聞にも取り上げられ村の駅ひだか等で販売好調となっている。</p> <p>◆本川きじ生産組合から本川手箱きじ生産企業組合へのスムーズな業務移管</p> <p>◆需要に対応した安定的な生産・経営体制の確立</p> <p>◆販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)</p> <p>◆新商品の開発</p>	<p>・販促活動、県内イベント出展 9回(1四半期 2回、2四半期 4回、3四半期 3回)</p>
<p>13 農業振興ネットワークの構築による地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークを構築し、情報の共有化を図り、日高の農産物及び村の知名度アップを図ることにより、地域生産者の所得向上や地域の活性化を目指す。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークの構築</p> <p>◆日高村及び日高村農産物の知名度向上</p>	<p>・日高村アグリネットワーク会議の開催(2回)</p> <p>・庁内プロジェクト会議の開催(4回)</p>
<p>14 仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、生産・加工・流通の安定化に向けた取組を行い、木材産業の振興を図る。</p> <p>【森林組合・林業事業者・素材生産業者・製材業者等】</p>	<p>○森の工場、森林経営計画の推進により、木材増産に向けた施業地の集約化が進んでいる。</p> <p>○森林組合においては、支所(高知中央森組)や製材工場(仁淀川森組)の統括による業務体制やコスト・生産性の改善が図られた。</p> <p>○県下第2位の規模となる製材工場設置(仁淀川町)の事業計画が認定された。</p> <p>◆担い手の育成、確保</p> <p>◆施業の集約化と低コストへの取り組み</p> <p>◆増産体制の整備強化</p> <p>◆加工・流通体制の整備、確立</p>	<p>・仁淀川町と連携し木材増産、人材育成に取り組むチームの立ち上げ。</p> <p>・事業者の事業推進(事業地の集約化、生産性の向上、経営安定等)に向けた個別指導(1-四半期:2森林組合、10事業者。2-四半期:3森林組合、9事業者。3-四半期:3森林組合、11事業者)</p> <p>・自伐林家育成に向けた協議、指導(1-四半期:5回。2-四半期:2回。3-四半期:1回)</p> <p>・組織体制整備に向けた先進地の視察(2回)</p> <p>・仁淀川町の林業研修生募集開始(11/12)</p>
<p>15 特用林産物の販売拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>特用林産物(シキミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う。</p> <p>【JAコスモス・仁淀川森林組合・特用林産物生産者】</p>	<p>○シキミ・サカキの栽培指針の作成、生産者実態調査、現地研修会、目慣らし会、病害虫防除研修会等の取り組みにより、生産量の増や所得向上が図られた。</p> <p>○マッシュルームの増産、品質向上、販売促進が図られた。</p> <p>○柳野地区において、集落活動センターを中核とした山菜やきのこの生産及び収穫物の利用拡大が図られた。</p> <p>○越裏門・寺川地区において、原木マイタケ栽培を開始する準備が整った。</p> <p>◆生産量の増加</p> <p>◆品質と販売価格の向上</p>	<p>・生産者への指導(3-四半期まで:マッシュルーム6回、シイタケ等1回、原木マイタケ11回)</p> <p>・試験研究機関との協議及び共同研究(3-四半期まで:マッシュルーム4回)</p> <p>・産業振興アドバイザー指導・助言の実施(5回)</p> <p>・イベント支援(まいなばざんまいツアー:1回)</p> <p>・H28林業試験研究課題検討会提案(マイタケ:2-四半期まで:1回)</p> <p>・特用林産研修の開催(11/13)</p>
<p>16 自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化</p> <p>《佐川町》</p> <p>自伐型林業を核とした産業づくりを推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出と人材育成を目指す。</p> <p>【佐川町、自伐型林業に取り組む個人・団体】</p>		<p>・町民向けの自伐型林業研修の実施(3回)</p> <p>・町民向けの木質バイオマスの代行証明及び佐川町自伐型林業推進協議会に関する説明会実施(1回)</p> <p>・地域おこし協力隊採用(5名)</p>



<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品「きじコロッケ」試作販売開始(7月～)</li> <li>・東京の飲食店(2軒)と取引開始</li> <li>・高知市の飲食店(2軒)と商談開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額(H27.1～12月):約11,545千円</li> </ul>	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額 (H25:7,444千円)</li> <li>・本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額 13,580千円</li> <li>・本川きじの生産羽数 6,800羽</li> </ul>
		<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物販売額 (H22:3.2億円)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3.4億円</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川町森林管理推進協議会の設立</li> <li>・林業研修生として県内外から2名が仁淀川町に移住</li> </ul>		<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素材生産量 (H19:5.9万m<sup>3</sup>) (H22:3.7万m<sup>3</sup>)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6.3万m<sup>3</sup></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッシュルーム栽培における経営及び栽培手法の改善</li> <li>・こしあぶらと山菜祭り(柳野地区)において、コシアブラの新たなレシピ(生食)が実現</li> <li>・原木マイタケ栽培に向けて地域体制、施設整備が着実に進行。</li> <li>・イベント開催が実現(参加者105名)</li> <li>・H28林業試験研究課題と技術支援課題としてマイタケが位置づけられた。</li> <li>・特用林産研修(参加者12名)</li> </ul>		<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シキミ・サカキ出荷量 (H19 22t) (H22 30t)</li> <li>竹炭出荷量 (H22 20t)</li> <li>マッシュルーム (H25 9.5t)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シキミ・サカキ 32t</li> <li>竹炭 25t</li> <li>マッシュルーム 11t</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町民向けの自伐型林業研修(参加者8名)</li> <li>・H26年度の研修参加者1名が、山林を購入し自伐型で林業を始めた。</li> <li>町民向けの木質バイオマスの代行証明及び佐川町自伐型林業推進協議会に関する説明会</li> <li>・バイオマス証明申請:14件</li> <li>・佐川町自伐型林業推進協議会入会申込み:町民18名</li> </ul>		<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>林業関連新規雇用者数</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5名</li> </ul>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>17 うるめのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>「土佐の一本釣りうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくり、また、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【企業組合宇佐もん工房】</p>	<p>○年間を通じての生産・販売体制の構築、うるめを使ったレシピの開発によりブランド化が一定できた。</p> <p>○加工場の新設等により、顧客ニーズに柔軟に対応し、取引件数や売り上げが伸びてきている。</p> <p>○一本釣りうるめいwash推進委員会設立により、うるめを県内外へPRする組織体制が整った。</p> <p>◆原料の安定確保や、業務向け需要の開拓による宇佐もん工房経営の安定化</p>	<p>・一本釣りうるめ祭りの開催(市内12店舗参加)</p> <p>・各種イベントでのPR:2回</p> <p>・売上向上に向けたヒアリング:3回・協議:2回</p>
<p>18 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>《土佐市、いの町、日高村》</p> <p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、道具職人、楮栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。</p> <p>機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。</p> <p>【手すき和紙協同組合、高知県製紙工業会、いの町商工会、i-nos.net 他】</p>	<p>【土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21~23)】</p> <p>○景気低迷やデフレ等の要因で、目標の達成には及ばなかったが、紙産業全体が大幅に落ち込む中、土佐和紙の知名度の向上、下降の一途をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のラベル、ふるさと博名刺等)</p> <p>○廃業になっていた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生により、今後の受注対応や販売額増加に期待ができる。</p> <p>◆土佐和紙販売額の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。</p> <p>◆商品(土佐和紙)としても原紙のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略の構築が必要。</p> <p>◆手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、清張紙、納経帳、がんばり紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにすることが必要。</p> <p>【「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取組(H24~26)】</p> <p>○「土佐和紙」の保存・継承のために効果的な取組について職人へのヒアリングを行った結果、販売促進が重要であることが明らかになった。そのため、大消費地の新たな販路の開拓に向けて営業活動を行った。</p> <p>○プラチナプリントの印画紙「土佐白金紙」を開発し、国内外に販売を開始した。</p> <p>○商工会が25年度に国の全国展開支援事業の補助金を導入し、中心市街地活性化のための計画を策定し、試行したことにより、土佐和紙の産地として地域が一体となって、新しい紙の文化を発信するための連携意識が高まった。</p> <p>◆日本3大和紙である、土佐和紙の産地として地域が一体となって、新しい紙の文化を発信できる仕組みづくりと定着が課題。</p> <p>◆土佐和紙生産に関連する人材(原料生産者、手すき職人、道具職人)の人材確保が必要。</p>	<p>&lt;土佐和紙お問い合わせ&gt;</p> <p>・紙の博物館HP上に土佐和紙に関するお問い合わせ受付窓口を開設</p> <p>&lt;体験&gt;</p> <p>・こいのぼり作り体験、ちぎり絵体験、缶バッジづくり体験を実施(5/2~6)</p> <p>・夏休みこども教室を実施(7/29~31の間に折り紙教室等を計5回)</p> <p>・夏休みロビーでワークショップを実施</p> <p>盛さんによる折り紙体験:10回</p> <p>紙の博物館職員によるマーブリング体験:3回</p> <p>紙の博物館職員による缶バッジづくり体験:3回</p> <p>浜田あゆみさんによる塩ペインティング:1回</p> <p>&lt;連続講座&gt;</p> <p>・第1回 7/4 高知の手漉き和紙の製法と現状、及び他県の紙漉き工房の紹介</p> <p>・第2回 9/2 私の紙すき経験</p> <p>・第3回 11/14 特殊紙のたどった道</p> <p>・30周年記念収蔵品展(10/7~18)</p> <p>・いの通信局チーム会 9回</p> <p>・Kami祭(11/23)</p>

<p>アウトプット(結果)  &lt;インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと&gt;</p>	<p>アウトカム(成果)  &lt;アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと&gt;</p>	<p>指標・目標</p>
<p>・H27年度売上高:62,532千円(H27.4~12月)前年比144.6%</p>		<p>【指標】  うるめ商品の販売額  (H19:0千円)  (H22:5,493千円)</p> <p>【目標(H27)】  100,000千円</p>
<p>&lt;土佐和紙お問い合わせ&gt;  ・問い合わせ 19件</p> <p>&lt;体験参加者&gt;  ・こいのぼり:80人  ・ちぎり絵:約100人  ・缶バッジ139人</p> <p>・夏休み子ども教室:115人  ・夏休みワークショップ  折り紙:約200人  マーブリング:26人  缶バッジづくり:22人  塩ペインティング:18人</p> <p>&lt;連続講座参加者&gt;  ・第1回 34人  ・第2回 26人  ・第3回 35人</p> <p>・30周年記念収蔵品展 1,556人</p> <p>・Kami祭  紙博有料入場者:193人  体験参加者:延べ235人(8種類)</p>	<p>&lt;土佐和紙お問い合わせ&gt;  ・新規継続販売先 1件</p> <p>&lt;体験売上&gt;  (GW)  ・こいのぼり:32,000円  ・ちぎり絵:10,000円  ・缶バッジ:27,800円</p> <p>(夏休み)  ・夏休みワークショップ  マーブリング:2,050円  缶バッジ:4,400円</p> <p>(Kami祭)  ・体験8種類 39,750円</p>	<p>【指標】  土佐和紙の販売額  (H19:1.6億円)  (H22 6.6億円)  ・機械漉き 5.4億円  ・手漉き 1.2億円</p> <p>【目標(H27)】  6.6億円(現状の確保)</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>19 集客施設を核にした高岡地区の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。</p> <p>【土佐市商店街活性化推進協議会等】</p>	<p>○集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。</p> <p>○H25.4月に、土佐市高岡商店街集客施設「ドラゴン広場」をオープン</p> <p>○集客施設の安定的な運営に向け、産業振興アドバイザー制度等を活用し関係者と連携して経営改善に取り組んでいる。</p> <p>◆安定的な施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品ぞろえの充実、情報発信</li> <li>・先進事例等から学ぶ施設運営のノウハウ蓄積</li> </ul> <p>◆高岡地区の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡商店街や周辺地域を巻き込んだ活性化方策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テナント会の開催:9回</li> <li>・チームドラゴン会の開催:6回</li> </ul>
<p>20 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化</p> <p>《いの町》</p> <p>空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指し、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。</p> <p>「紙の町をお金にする」「まちなかを元気にする」を目標として、新商品の開発及び各店舗の元気づくりに取り組む。</p> <p>【いの町、いの町商工会】</p>	<p>【イベント『にじよどがわ七色ロード』の実施(H24～25)、中心市街地活性化計画策定(H25)及び試行(H26)】</p> <p>○H24に計5回イベントを実施し、店主への意識づけと、地域内外に対する商店街のPRを行ったことにより、若い店主を中心として、商店街を盛り上げていこうという意識が育ち、実行組織ができた。</p> <p>○イベントだけでは顧客、売り上げの増加には結び付きにくい。イベントも含め、商店街を面として磨きあげ、誘客するための計画づくりを多くの関係者を巻き込んで策定する必要があると考え、国の全国展開支援事業の補助金を導入し、計画を策定(25年度)、試行(26年度)した。</p> <p>そこで、「紙の博物館をハブとして、仁淀川の川遊び客などを中心市街地に誘客し、お金を落としてもらおう」という計画を策定し、その試行として、26年度に「紙のまち博覧会」を開催した。結果、紙、食、職人、仁淀川の各部会で売上が上がり、継続実施に向けての連携意識が高まった。</p> <p>◆中心市街地活性化事業としての「紙のまち博覧会」の継続とともに、博覧会でお披露目、販売する商品、サービスの磨き上げを継続させ、事業者の商品力、販売力の向上に結び付けることが課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙部会 3回</li> <li>・土佐ガリキューブ商品開発打合せ 6回</li> <li>・仁淀川部会 6回</li> <li>・銀橋マルシェ 5回</li> <li>・生姜焼き街道打合せ 7回</li> <li>・職人ミーティング 7回</li> <li>・空き店舗家賃補助事業の募集開始</li> <li>・生姜焼き街道スタンプラリー開始(21店舗参加)</li> <li>・いの通信局チーム会 9回</li> <li>・Kami祭(11/23)</li> </ul>
<p>21 地域産品を活用した冷菓等の製造販売</p> <p>《いの町》</p> <p>地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【(有)高知アイス】</p>	<p>○生産体制および品質管理の強化(H22～23)</p> <p>○商品開発および販路拡大(H22～23)</p> <p>開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時期に生産体制を強化するための施設設備を整備しており、増産が円滑にできた。また、平成22年度には香港でアイスクリームの販売許可を取得することができ、平成23年度には海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組むなどして一定の販路拡大が図られた。</p> <p>○海外向けPRツール作成、水道施設の改良、直営売店の拡充(H24)</p> <p>平成24年度も海外での販路拡大のために成分検査・商標登録、ラベルプリンター導入、PR用ソフト制作、また海外向けの需要拡大を見込み給水施設を改良し海外向け販路拡大を強化できた。また、直営売店の飲食・売り場スペースを拡張し、工場視察の観光客等来店するお客様満足度の向上を図り、口コミ等によるPR効果によって更なる県外客による顧客拡大で、1年目の平成25年度売店売上額が平成27年度目標に到達した。</p> <p>○25年9月にハラール認証を取得したので、更なる海外の販路拡大が見込まれる。</p> <p>○売店の増築及び冷蔵設備の整備、工場視察用施設(窓・見学通路)の整備を行い、観光客向けの販売を強化した。(H26)</p> <p>○冷凍保管庫建屋、発送室及び冷凍設備の増設により、海外向けの出荷体制の強化を図るとともに、未開発地である中東地域(UAE)での市町調査や商談会出展、包装パッケージデザイン製作により国内外の販路開拓に繋がった。(H26)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆周年販売を目指し、海外市場の販路拡大</li> <li>◆顧客ニーズへの対応</li> <li>◆在庫・出荷体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外、海外でのプロモーション活動 10回(1四半期 5回、2四半期 4回、3四半期1回)</li> </ul>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・来場者数(H27.4～12月):82,674人(前年比104.3%) ・レジ通過人数(H27.4～12月):58,969人(前年比109.9%)	・販売額(H27.4～12月):44,602千円(前年比135.1%)	【指標】 施設直販市での販売額  【目標(H27)】 79,000千円
・銀橋マルシェ来店者:633人 ・空き店舗に関する問い合わせ:10件 ・生姜焼街道来店者数:2,106人 ・Kami祭来店者 職人ストリート:390人 生姜焼街道:300人	・銀橋マルシェ売上:約180,000円 ・生姜焼街道売上:1,334,320円 ・Kami祭売上 職人ストリート:123,500円 生姜焼街道:153,070円	【指標】 いの町商店街の空き店舗率の改善 (H23 25.3%) ※25/99店舗  【目標(H27)】 20%未満
・商談 1件 ・ハワイチェリーフードショー(6月4日)来場者数 レストランオーナー370名・小売業者7名・ホテルのシェフ15名・問屋15名・その他(計529名)	・海外のマーケティング活動販売額:約585万円 シンガポール:約435万円 ハワイ:約50万円 香港:約100万円 ・高知アイスの売店の販売額(12月末現在):約2,363万円(前年比約205%)	【指標】 冷蔵等の販売額(H22:3.75億円)  【目標(H27)】 4.47億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>22 (株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、地域の商社として「(株)フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p> <p>【(株)フードプラン、仁淀川町】</p>	<p>○主力商品づくり (H21~25) 主力商品が「カット野菜」であるため、野菜の高騰により利益確保が困難な局面もあったが、営業努力等により取引は順調に拡大。H27目標(4.0億円)を上回る販売額を達成し、地域の雇用増にも貢献している。</p> <p>○施設整備の検討、組織の課題整理 (H24~26) 現施設での生産能力が限界に近いことから、産業振興推進総合支援事業を活用した経営分析事業により、新工場の概略案及び収支計画等を策定した。</p> <p>◆さらなる取引ニーズはあるものの、現施設での生産能力が限界に達している。今後は、新工場の整備内容及び最適財源等についての精査が急がれる。</p>	<p>・26年度経営分析事業で策定した新工場整備案に基づき、検討会を定期開催</p>
<p>23 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町において、地元民間企業の商品の販売促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p> <p>【佐川町、JAコスモス、佐川町商工会、企画本舗さかわ屋、地元酒造会社、地元乳業者、地元加工業者、黒岩じるし、地元酪農家 など】</p>	<p>○平成21年度から酪農家を含めた農商工連携組織である地乳プロジェクト会を設置し、地元産の牛乳を使った商品づくりの取組を進め、平成22年度には、「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品シリーズの商品化を図り、そのPR・販売促進の取組が進んだ。平成23年度には、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加傾向にあり、酪農家の所得も上がってきている。また、地乳加工品も増え、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果が見込まれる。</p> <p>○平成26年度に、佐川ものづくり支援事業補助金を活用して、地元農産物を使用した加工品(4品目)の開発に取り組み、販売等している(アイス2商品、販促グッズ、キャラメル)。地乳商品認定要綱を策定し、商標管理体制を確立した。</p> <p>◆酪農家への直接収入化につながる取組の実施 ◆「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立 ◆地元農産物及び地元農産物を使用した加工品の認知度向上</p>	<p>・地乳プロジェクト会の開催(13回) ・第1回さかわ地乳まつりの開催(9/12) ・産地視察型商談会への出展(南吉本乳業) ・農業創造セミナーへの参加(黒岩じるし) ・出張カフェ、スイーツビュッフェの開催(明郷園と黒岩じるし)</p>
<p>24 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○木質ペレット関連商品生産会社の誘致 ◆既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興 ◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(4回) ・村内企業を訪問(16社) ・日高村移住ホームページの開設(企業の雇用情報を掲載)</p>
<p>25 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p> <p>【澁谷食品(株)】</p>	<p>○県外への新店舗の設置 ◆自社ブランド製品の新たな製品開発と販路拡大 ◆原材料のさつま芋の栽培確保</p>	<p>・新聞広告による関東圏へのPR ・松山での2号店となる道後店がオープン(9/13)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・新工場整備にかかるラフ案の作成 ・経営分析を基にした経営改善計画の策定		<b>【指標】</b> (株)フードプランの販売額 (H19:2.2億円) (H22:3.2億円)  <b>【目標(H27)】</b> 4.0億円
・出張カフェ来客 30組		<b>【指標】</b> 生乳出荷量の拡大 (H21:240t) (H22:260t)  <b>【目標(H27)】</b> 480t
		<b>【指標】</b> 支援企業数 (H21:1社) (H22:1社)  <b>【目標(H27)】</b> 2社
・食品加工新規部門(芋屋金次郎部門)の販売額:約11.3億円 (H26.8~H27.7)	・直営店舗(日高・御座・松山・道後及び日本橋店)展開 による芋屋金次郎ブランドの浸透、認知度向上	<b>【指標】</b> 食品加工新規部門の販売額 (H21:2.0億円) (H23:3.2億円)  <b>【目標(H27)】</b> 4.5億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>26 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用を創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【(株)エスエス】</p>	<p>○企業進出による雇用の増</p> <p>◆地域素材を活用した地域振興</p> <p>◆安定した生産ライン体制の確立</p> <p>◆原材料の安定調達</p>	<p>・日産400ケースの生産を目指した生産体制の調整</p>
<p>27 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。</p> <p>【日高村、(株)村の駅ひだか】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度産振総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)による事業を実施し、地域の観光情報発信拠点機能を有した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>○平成25年度産振総合支援事業費補助金による事業を実施し、地域の観光情報発信拠点機能を有した施設整備に着手した。</p> <p>○平成25年度に産業振興アドバイザー制度により日高村総合発信拠点施設整備検討委員会を実施し、運営体制等の検討を行った。</p> <p>○平成26年度に運営母体となる第三セクターを設立し、村の駅ひだかをオープンした。</p> <p>◆施設整備後の集客に向けた体制作り及び運営体制の検討が必要。</p> <p>◆商品(野菜等)の確保対策の検討が必要。</p>	<p>・村の駅ひだか運営等検討会の開催(9回)</p> <p>・第2駐車場(22台分)の整備(4月)</p> <p>・庁内プロジェクト会議の開催(4回)</p>
<p>28 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。</p> <p>【仁淀川地域観光協議会、いの町観光協会、越知町観光協会、さかわ観光協会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村】</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の旅行会社への売り込みによるツアー催行率は、昨年度に比べて大きく実績数を伸ばしている。</p> <p>※企画したツアーが164本催行、送客人数4,153名(H26年度)</p> <p>○H25年度のツアー実績に対する経済波及効果が4,048万円(簡易分析ツール)と、協議会予算額の2倍以上となる。</p> <p>○屋形船の運航(日高村)や、河原でのバーベキューサービス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。</p> <p>◆ツアー造成で取り上げてもらえる地域内の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光振興施策とも連携して県内外の一般客へのPRを行い、継続的な仁淀川地域への誘客につなげる。</p> <p>◆協議会職員や市町村、観光協会等の観光担当者の一層のスキルアップを図るとともに、地域間のネットワーク強化と情報共有、協議会の運営体制の強化を図る必要がある。</p> <p>◆外国人観光客の受入に関する環境整備等を図る必要がある。</p>	<p>・旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動の実施</p> <p>エージェント訪問(51件)</p> <p>・NASAまちおこしたい情報交換会(3回)</p> <p>・仁淀ブルー通信編集会議(2回)、配信(0~18号)</p> <p>・仁淀川地域観光協議会幹事会(9回)</p> <p>・仁淀川地域観光協議会通常総会(1回)</p> <p>・一般社団法人仁淀ブルー観光協議会設立準備会(3回)</p> <p>・一般社団法人仁淀ブルー観光協議会設立後臨時総会(1回)</p>
<p>29 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、津野町、椿原町》</p> <p>横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせて、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○ジオサイトの整備、実施主体の組織化など、整備事項が多岐にわたり、費用負担も相当規模になると見込まれることから、取組を円滑に推進するために、これらを盛り込んだ事業計画の検討を実施した。</p> <p>◆各6町村での説明会の実施や様々なイベントでの啓発活動など、最も重要であり、最も時間を要する地域住民の認知度の向上</p> <p>◆どのように地質資源の保全を行うか、地質等を如何に教育に役立てるか、地質遺産を楽しむジオツーリズムによって如何に地域経済活性化を図るかなど、ジオパークの3つの柱の整備</p> <p>◆ジオパーク推進拠点や多言語案内看板、説明板等の設置等のハード整備</p> <p>◆しっかりとした運営と運営計画の策定が実施できる運営母体の整備(組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などから構成)</p>	



<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・日産480ケースの生産(H27.12月現在)	・ペット用木質系排泄物処理剤の販売額:4,676万円 (H27.8月期決算)	【指標】 ペット用木質系排泄物処理剤の販売額 (H23:450万円)  【目標(H27)】 9,000万円
・来場者数(レジ通過人数)10万人達成(5/8) ・来場者数(レジ通過人数)20万人達成(11/19) ・年間来場者数(レジ通過人数):145,808人(H27.4~12月)	・直販市の売上:146,160千円(H27.4~12月)	【指標】 施設での販売額等 (H23:59,126千円)  【目標(H27)】 103,200千円
・企画したツアーが121本催行された。(12月末時点) ・一般社団法人仁淀ブルー観光協議会設立(12/17)	・企画したツアーの送客人数 3,191人(12月末時点)	【指標】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数 (H23:500人) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19:52,156人) (H22:52,902人) 主要観光施設の入込数 (H19:136,380人) (H22:135,029人)  【目標(H27)】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数 730人(年10%アップ) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 56,000人 主要観光施設の入込数 140,000人
		【指標】 ジオサイトへの入込客数  【目標(H27)】 5000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p><b>30 交流施設の整備による新居地区の活性化</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市の新たな地域振興の拠点、また地域情報発信基地として「観光交流センター」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【土佐市、特定非営利活動法人新居を元気にする会等】</p>	<p>○防災機能を備えた複合的交流施設整備についての検討を重ね、H26.4月に国補助金交付の活用により建築工事に着手。</p> <p>○アドバイザーを招き、観光交流施設の運営に関する検討を重ねている。</p> <p>◆運営方法、体制等の検討</p>	<p>・観光交流施設オープンに向けた検討会他 9回</p> <p>・産振アドバイザー事業の実施 5回</p> <p>(内訳)</p> <p>新居地区観光交流施設の魅力づくり 3回(土佐市)</p> <p>新居地区観光交流施設の1階部分に係る直販所運営の仕組みづくり 2回(新居を元気にする会)</p>
<p><b>31 体験型観光・食観光の推進</b></p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p> <p>【土佐市、土佐市商工会など】</p>	<p>○宇佐土曜市での体験メニューや買い物ツアーなど、旅行商品に組み込まれるなかで高評価を得ている。</p> <p>○宇佐・高岡の2地域から「まちあるきコース」が誕生し、ガイドの研修を実施。</p> <p>○ホエールウォッチング利用客の滞在時間を延長する取り組みが開始され、域内への波及効果が得られている。</p> <p>○短時間のクルージングメニューを開発し、旅行商品化させる取り組みが進んでいる。</p> <p>◆体験型観光メニューを実施する事業主体の体制強化及び提供メニューの充実</p>	<p>・ホエールウォッチングに関する協議: 7回</p> <p>・宇佐地区における観光商品化協議(産業振興アドバイザー指導・助言実施): 2回</p>
<p><b>32 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり</b></p> <p>《いの町》</p> <p>いの町において、物理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【いの町、いの町観光協会、いの町商工会、ロハスなむささびの里づくり協議会、土佐和紙工芸村ほか】</p>	<p>【体験型観光の推進(H21~26)】</p> <p>○平成22年度の仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。</p> <p>○平成23年度にNHK高知放送局80周年記念として、仁淀川特集が全国放送され、注目度が上がった事をきっかけとして、平成24~25年度に受け入れ体制の充実及び、新しい体験メニューづくりを行い、いの町を訪れる観光客の増加、地域経済の活性化に結び付けた。</p> <p>○グリーンツーリズム研究会やいの小町、いの町ガイドくらぶなどの地域団体と連携し、観光協会が窓口になり、田舎体験や紙のものづくり体験、まちあるきなどの体験メニューを一体的に情報発信する仕組みが整った。</p> <p>○新たな体験メニューとしてSUP、土佐あかうしのBBQ及び生姜焼き街道の取り組みが始まった。</p> <p>◆観光客が地域にお金を落とす仕組みとして、紙のまち博覧会を定着させ、イベント、体験型観光及び地域資源を活かした特産品を一体的、継続的に、開発、情報発信していくサイクルを回し続けることが課題。</p>	<p>&lt;イベント開催: 6回&gt;</p> <p>・いの町紙のこいのぼり開催: 5/3~5</p> <p>・“en”~灯りと自然と音楽と~開催: 5/23~24</p> <p>・グリーンパークほどの梅もぎ体験開催: 6/14</p> <p>・仁淀川国際水切り大会: 8/23</p> <p>・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う: 9/20</p> <p>・Kami祭: 11/23</p> <p>&lt;市の開催: 5回&gt;</p> <p>・銀橋マルシェ: 7/26、8/9、8/16、8/23、8/30</p> <p>&lt;グリーンツーリズム体験メニュー&gt;</p> <p>・観光協会HPでグリーンツーリズム体験観光メニュー(26本)の販売開始(4月~)</p> <p>&lt;アドバイザーの招へい: 1回&gt;</p> <p>・いの町中心市街地の町並みの特徴を説明する看板づくり: 9/1</p> <p>&lt;Kami祭担当者会: 6回&gt;</p>
<p><b>33 山岳資源を活用した交流人口の拡大</b></p> <p>《いの町》</p> <p>「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【いの町、いの町観光協会】</p>	<p>○体験メニュー等の開発</p> <p>これまで高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。</p> <p>◆体験メニュー等の商品化</p> <p>◆商品化に向けての資源の掘り起こし</p> <p>◆売り込み先の確保</p> <p>◆瀬戸内圏から見た北の玄関口の窓口案内の強化</p>	<p>&lt;ウォーキングツアー等イベント&gt;</p> <p>開催回数: 15回</p> <p>・伊予富士ウォーキングツアー【西讃観光】(4/9・4/11)</p> <p>・氷室まつり開催【氷室まつり実行委員会】(7/12)</p> <p>・岩黒山ウォーキングツアー【西讃観光】(7/22)</p> <p>・東黒森ウォーキングツアー【西讃観光】(7/25)</p> <p>・まいなばさんまいツアー【バーチャル本川村】(9/26)</p> <p>・寒風山ウォーキングツアー【西讃観光】(4/23・4/25)</p> <p>・稲村山ウォーキングツアー【高知新聞社】(5/6)</p> <p>・UFOラインウォーキングツアー【城西館】(5/9)</p> <p>・笹ヶ峰ウォーキングツアー【西讃観光】(5/16)</p> <p>・石鎚山系元気ウォーキング【主催: 西条市 共催: いの町 久万高原町】(5/17)</p> <p>・東黒森ウォーキングツアー【城西館】(10/17)</p> <p>・伊吹山ウォーキングツアー【城西館】(10/14・10/18)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<p>&lt;イベント参加者数:約19,226人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いの町紙のこいのぼり:約11,000人</li> <li>・“en”～灯りと自然と音楽と～:約1,000人</li> <li>・グリーンパークほだの梅もぎ体験:約50人</li> <li>・仁淀川国際水切り大会:176人</li> <li>・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う:6,000人</li> <li>・Kami祭:約1,000人</li> </ul> <p>&lt;市訪問客:633人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀橋マルシェ:633人</li> </ul> <p>&lt;グリーンツーリズム体験メニュー参加者:104人&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Kami祭売上:385,590円</li> <li>・銀橋マルシェ売上:約180,000円</li> <li>・グリーンツーリズム体験メニュー売上:111,800円</li> <li>・カヌー、ラフティング:3,544人 24,271,880円</li> <li>・にこにこBBQ:2,680人 5,473,100円</li> </ul>	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験受入数 (H25:6,642人)</li> <li>体験料収入 (H25:17,855千円)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験受入数 7,220人</li> <li>体験料収入 23,807千円</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いの町内の公共施設の利用者数 (H22:約450,000人)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>500,000人(10%アップ)</li> </ul>
<p>&lt;ウォーキングツアー等イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加延べ人数:1,530人</li> <li>・伊予富士ウォーキングツアー:42名</li> <li>・氷室まつり開催:600名</li> <li>・岩黒山ウォーキングツアー:20名</li> <li>・東黒森ウォーキングツアー(7/25):20名</li> <li>・まいなばざんまいツアー:105名</li> <li>・寒風山ウォーキングツアー:21名</li> <li>・稲村山ウォーキングツアー:25名</li> <li>・UFOラインウォーキングツアー:25名</li> <li>・笹ヶ峰ウォーキングツアー:10名</li> <li>・石鎚山系元気ウォーキング:600名</li> <li>・伊吹山ウォーキングツアー:44名</li> <li>・東黒森ウォーキングツアー(10/17):18名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)トラベルギャラリー(大阪)との商談成立</li> </ul>	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅木の香・山荘しらすの利用人数 (H26:55,482人)</li> <li>・本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,600人)</li> </ul> <p>【目標(H27)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅木の香・山荘しらすの利用人数 57,000人</li> <li>・本川地区の公共施設利用者数 71,000人(5%アップ)</li> </ul>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>34 観光情報の一元化とおもてなし観光の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p> <p>【仁淀川町内の観光関連団体、仁淀川町】</p>	<p>○各観光団体のHPや観光ポータルサイトによる、情報発信力の強化 ○「宝来荘」及び「ゆの森」の増改築によるリニューアル ○「仁淀川町の観光を考える会」による民間団体間交流、ガイドの発掘・養成</p> <p>◆観光ガイドの育成や、地域全体を巻き込んだツアーの実施が十分行えていない ◆役場、観光協会、地域団体の意識統一や連携が十分でない</p>	<p>・仁淀川町観光協会を主体とした「観光情報報告会」の開催(8回)</p>
<p>35 歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、観光資源としての充実を図る。</p> <p>【佐川町、さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり関連団体】</p>	<p>○歴史的風致形成の取組みでは国庫補助事業の活用により、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築や、景観を損なう建物を取り壊して小公園の整備、牧野富太郎博士の生家跡への「牧野ふるさと館」の建設、旧浜口家住宅の復元整備、藩政時代に家臣の子息の学びの場であった「名教館」の移築整備等により、歴史的建造物が建ち並ぶ街並みを整備した。</p> <p>○NPO法人佐川くろがねの会を中心に、観光資源を活かした観光ガイドの充実やさかわ観光協会、商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街並み環境整備事業計画への取組 ◆さかわ観光協会を中心とした佐川町の物産販売、情報発信や、地域で作り込んだ観光の提案の積極的な実施 ◆さかわ観光協会等と連携したソフト面での対応も求められる。</p>	<p>・佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催(3回) ・地域おこし協力隊員採用(9月～、2名) ・産業振興アドバイザーの指導・助言(2回)</p>
<p>36 越知町の総合的な観光推進と地場製品の販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p> <p>【おち駅物販経営協議会、越知町観光協会、JAコスモス、越知町など】</p>	<p>○H22.4:観光物産館おち駅オープン ○H24.8:新POSシステム導入 ◆出荷者の確保 ◆他の直売所との差別化 ○H23.7:カヌー、ラフティング開始 ○H26.10～27.3:カヌー、ラフティング拠点の適地調査 ◆荒天時、シーズンオフへの対応 ◆カヌー、ラフティングのガイド確保</p>	<p>・おち駅物販経営協議会総会の開催(2回) ・おち駅物販経営協議会の開催(7回) ・産業振興アドバイザーの指導・助言(6回) (内訳) ・<u>横倉山を中心とした越知町の観光メニューづくり5回(越知町)</u> ・<u>販売額及び来客数の拡大に向けたおち駅のあり方の検討1回(おち駅物販経営協議会)</u></p>
<p>37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>仁淀川沿いエリアでの新たな観光振興につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、集客力のアップを図り、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村、(株)屋形船に淀川】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、屋形船を活用した拠点整備計画を取りまとめた。</p> <p>○仁淀川初となる屋形船運航が開始された。</p> <p>○H26村単補助金によりトイレ遊歩道を整備し、観光交流拠点としての機能が向上した。</p> <p>◆仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が必要。 ◆冬期の利用客が少なく集客のための取り組みが必要。</p>	<p>・産業振興アドバイザーの活用に向けた打合せ(1回) ・庁内プロジェクト会議の開催(4回) ・屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくり検討会の開催(5回)(産業振興アドバイザーを活用)</p>
<p>38 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで、小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、国宝レプリカを活用した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>○国宝レプリカの完成</p> <p>◆小村神社周辺エリアでは、国宝に指定された大刀の常設展示など観光資源の磨き上げと域内の観光ガイドの組織化など体制整備が必要。</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(4回) ・小村神社秋の大祭及び第2回日高メシふえすていばる!!!!の開催(11/15)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
		<p>【指標】 ガイド養成人数、実施ツアー数</p> <p>【目標(H27)】 ガイド養成人数20人 ツアー数50ツアー</p>
		<p>【指標】 歴史的風致地区への入込客数</p> <p>【目標(H27)】 10,000人</p>
<p>・施設での販売額:76,718,924円 ・施設への来客数:71,834名 ・カヌー利用者数:815名(H27年度) ・ラフティング利用者数:1,473名(H27年度)</p>		<p>【指標】 施設での販売額 (H22:5,600万円) 体験メニューの造成 案内人の養成数 ラフティング・インストラクター数 (H23:6人)</p> <p>【目標(H27)】 施設での販売額 6,000万円 体験メニューの造成 6メニュー 案内人の養成数 6人 ラフティング・インストラクター数 8人</p>
<p>・屋形船の乗船者数(12/22現在):3,525人 ・ガイド勉強会(産振アドバイザーによる)へのガイド候補者参加数:8人</p>		<p>【指標】 ・乗船者数(H25:3,277人) ・体験型観光での入込客数(H22:7,834人)</p> <p>【目標(H27)】 ・乗船者数 4,500人 ・体験型観光での入込客数 23,500人</p>
<p>・小村神社秋の大祭及び第2回日高メンふえすていばる!!!!来場者:1,200人</p>		<p>【指標】 体験型観光での入込客数 (H22:7,834人)</p> <p>【目標(H27)】 体験型観光での入込客数 23,500人</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>39 柑橘類等地域の農産物を活用した加工品の生産と販売拡大</p> <p>《越知町》</p> <p>柑橘類等、越知町をはじめとした地域の農産物を活用した新たな加工品の開発や生産と販売の拡大をさらに進めるとともに、原料の柑橘類の確保に向けた農地及び生産者情報の共有を進める。</p> <p>【(株)岡林農園】</p>		<p>・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)の導入による経営分析の実施(事業費306,180円、補助金額141,000円)</p>
<p>40 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>「かぶせ網」や「海底耕うん」によるアサリ資源の保護・回復を推進するとともに、資源回復後は観光分野への活用を検討する。また、垂下式養殖技術の確立によるアサリの販売促進及び宇佐アサリのブランド化を進める。これらの取組によって、宇佐地域にかつてのような賑わいを取り戻し、地域の活性化につなげていく。</p> <p>【宇佐地区協議会、宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム】</p>	<p>◆アサリ資源を保護・回復させるための効果的な手法の確立 ◆アサリ資源の管理 ◆垂下式養殖の体制確立 ◆観光分野への活用</p>	<p>・アサリ養殖の取組に関する協議:1回</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	指標・目標